

加いただき、市民一丸となつてつくる祭りとなりました。

二日間の開催を通じ、軽度の救急搬送は2件あったものの、大きな事故も無く安全に開催することができましたことから、議員のお話のとおり、事務局としては、まずは「成功」であったと考えております。

この後、今回の祭りを振り返る機会として、実行委員会を開催し、今後の改善点などについて協議していく予定としております。また、祭り会場において実施したアンケート調査も現在集計中でありますことから、これらを踏まえ、課題一つ一つを解決していくとともに、次回開催に向け、「また来たい」と思ってもらえるような祭りが開催できるよう、しっかりと準備していきたいと考えています。

議員より 会場変更1回目の開催としては、来場した市民も大いに楽しんでいましたし、何よりも事故なく無事終了したことは、私も「成功」と考えます。

一方、あまり喜んでばかりもいられませんので、今後さらによい祭りにしていきたいと思う一人でありますし、今回の開催を通じて改善点も感じましたので、庁舎敷地の利便性向上についてさらに関連して質問を続けさせていただきます。

皆さんの多くが感じていることと思いますが、今回開催してみて会場の広さが一番気になりました。既存の市役所をはじめ、周辺道路や後谷公園、文化会館を活用しての開催でしたが、たくさんの市民にお越しいただくスペースとして、また、様々な出店やイベントを開催するスペースとしては少々手狭な印象です。もっとスペースがあれば、これまで以上にいろいろな催しが実施可能であり、来場された皆さんにとっても出店で購入した後、落ち着いて飲食する時間がつくれるなど、祭りの魅力もさらに向上するのではないかと思います。

今回、例年になく沢山の市民の皆さんにご来場いただいたのは、昔を知る方々からは懐かしい市役所周辺開催の復活でありますでしょうし、一方で、初めて参加された方々にとっては、市の中心部である市役所周辺という立地の良さもあり、これだけ多くの方々の来場を得ることができたと考えます。

そこで、もっとたくさんの方々に楽しんでいただくために、もう少しスペースを生み出せないか考えました。具体的には、市役所敷地内スペースの庁舎南側にある花壇や芝生で高くなっている場所を有効活用してはと考えます。

スロープ前の花壇については、平成26年度に噴水を花壇にかえることを決定し、27年度末に花壇として使用を開始しています。そして、花壇の維持管理作業は、たぶん水

と緑の公社が集めたボランティアに年2回作業をしてもらっており、苗等の原材料代の実費のみ市費で負担している状況だと思えます。

現在、植樹や花壇、記念碑等が配置され、来庁する市民にとっての憩いの場として、市役所の風格づくりには一役買っていると思いますが、多くの方々の利用には至っていないように思います。それであれば、普段は不足しがちな駐車スペースとして、また、ふるさと祭りをはじめとした市役所を会場にする祭りのスペースとして大いに活用してはどうかと考えます。

10年ほど前、市庁舎を建替えず、耐震化・長寿命化を図ることで、今後も現行の庁舎を活用していくことが決定されています。現在の市役所をさらに市民にとって有効活用できるようにしていくべきと考えますが、財務部長の考えを伺います。

財務部長より 市役所庁舎南側にあります花壇につきましては、元々、噴水として利用しておりましたが、平成23年の東日本大震災以降の電力事情を考慮し、運用を停止しておりました。平成26年に、水道・電気などの維持管理費の負担、度重なる故障による修繕費が発生することを鑑み、花壇として整備することと決定し、平成27年度に花壇整備を行い、現在まで、色とりどりの花々により、訪れる人々に安らぎを与えてまいりました。

一方、市庁舎につきましては、建て替えでは無く、できる限りの長寿命化を図り、建物本体の耐用年数まで利用していくこととし、平成24年から平成27年に庁舎耐震改修工事、設備改修工事を行いました。まだ20年以上現在の庁舎を利用していく中で、庁舎並びに敷地の利便性の改善については総合的に行っていく必要があると考えております。

以上のことから、議員ご提案のとおり、現在の課題についてはもちろんのこと、今後のニーズの変化にも対応するため、敷地内(全体)南側の植栽も含め、駐車場のスペースの確保、イベントスペースの確保などにつきまして、全体的な見直しを検討してまいります。

議員より さて、このように有効活用するための変更を行うのであれば、以前からの懸案となっている玄関前スロープもいっそのこと、解体してはいかがでしょうか？

今年は、昨年とは打って変わり梅雨が長く続きましたが、この梅雨空の下、私は足の不自由な方が1階西口から雨に濡れながらタクシーに乗ろうとする姿を、偶然遠くから目にしました。

現在、スロープで2階の正面玄関まで上がることができ

ませんので、雨の中を西側から傘を差さずに車に乗ることはできません。戸田市においても、今後高齢化が進行し、これまで以上にスロープを上ることが困難な方が多くなり、このような課題が増加することも考えられます。

そこで、敷地内のスペース拡大による有効活用に加え、庁舎の利便性向上に向けて、玄関前スロープの解体も検討してはどうかと考えますが？ 財務部長のお考えをお聞きします。

財務部長より 玄関前のスロープにつきましては、一部勾配が急な箇所があるため、車両で進入する際に車両本体が地面に接触することがあり、平成27年2月以降、車両の利用を中止し、歩行者のみの利用としていただいております。

議員ご指摘のとおり、現状、2階正面玄関への車両の利

防災行政無線について

議員より 平成29年9月議会で防災行政無線について、聞きづらいという声が市民からあり、何か市として改善をすべきではないかと一般質問させていただきました。特に一人生活者の方や共同集合住宅、マンションなどにお住まいの方へ、直接情報が伝わる防災ラジオを所持して頂けるよう考えてもよいのではないかと要望しました。その後、その要望に対応して防災ラジオを整備し、皆様へ販売することとなりました。

そこで、(1)難聴地域の解消に向け、昨年度から販売がはじまった防災ラジオのこれまでの申し込み状況について、

(2)現在の防災行政無線と防災ラジオの違いについて、以上、2点についてお伺いします。

危機管理監より (1)防災ラジオのこれまでの申込状況についてお答えします。

防災ラジオについては、高層の建築物や気密性の高い住宅、また豪雨や強風などの影響により防災行政無線が聞き取りにくいことへの対策として、平成30年10月31日より申込みを開始いたしました。

これまでの申込状況等については、当初、1,000台の防災ラジオを発注いたしました。申込件数や問い合わせが非常に多かったことから、更に500台を追加し、合計1,500台を用意したところでございます。8月現在、1,350台の申込、配布となっております。

なお、近年の台風の大型化や豪雨による災害等により、市民の防災情報への関心が非常に高くなっていることから、今後の申込状況を勘案し、更に防災ラジオの追加を検討

用ができないことから、雨に濡れずに庁舎に入れる車寄せがない状況であることは解決しなければならない問題だと認識しております。

また、庁舎の構造上、正面玄関の位置が2階となりますことから、そこまでの動線をいかに確保するかも課題であります。

何れにしましても、庁舎並びに敷地の有効活用、利便性向上を目指しまして、全体的な見直しに合わせ、スロープの解体も含め検討してまいりたいと考えております。

議員より 何かと問題ではあると認識しているとご答弁されました。いずれにしましても、庁舎並びに敷地の有効活用、利便性向上を目指し、全体的な見直しを合わせ、また、スロープの解体なども含め早急な協議を要望します。



平成30年11月27日
埼玉新聞より

討しており、この9月議会において補正予算案を上程しているところでございます。今後も正確な情報を確実に伝えることのできる防災ラジオを防災訓練や出前講座などにおいて周知してまいります。

次に、(2)現在の防災行政無線と防災ラジオの違いについてお答えします。

防災行政無線と防災ラジオの大きな違いといたしましては、周波数帯と情報の配信方法及び送信出力となります。

まず、防災行政無線の周波数帯は、60MHzのアナログ波を使用しております。情報は音声により配信され、他の自治体に影響が無いよう10W以下の出力に制限され送信しております。このアナログ波につきましては、令和4年11月を以て使用できなくなることから、現在計画的にデジタル波への移行を実施しております。

一方、防災ラジオについては、通信事業者が免許を持つポケットベル周波数帯である280MHzのデジタル波を使用しております。情報配信については、文字情報を250W以下の強い出力で送信し、音声へ変換されることから、気密性の高い建物でも到達性、浸透性及び音声の明瞭度が高く、情報伝達能力に優れております。